

海外研究発表会報告

報告者：館岡洋子・池田玲子

1.	日程	2014年 9月5日(金)・6日(土)
2.	地域(概要含む)	マレーシア(クアラルンプール) マラヤ大学
3.	担当者(人数・役割)	館岡洋子(早稲田大学)・池田玲子(鳥取大学)
4.	形態	講演・ポスター発表・ワークショップ
5.	主催	主催：協働実践研究会マレーシア支部・マラヤ大学言語学部 協賛：国際交流基金マレーシア
6.	テーマ(タイトル)	「グローバル時代の人材育成—日本語教育におけるピア・ラーニングの理論と実践—」
7.	内容の概要	◆講演(館岡・池田)「グローバル時代の人材育成 日本語教育におけるピア・ラーニングの理論と実践」 ◆ワークショップ(館岡・池田) 1)ピア・ラーニング体験： ①読解活動(ピア・リーディング) ②会話活動 2)ピア・ラーニング 実践についてのポスター発表 3)ピア・ラーニング 授業のデザインとその検討会
8.	参加者 (人数・背景・声など)	約20名 協働実践研究会会員・日本語教育関係者
9.	担当者の内省	マレーシアでの開催ははじめてのこととあり、準備段階での現地担当者(木村さん他)の方々は非常にたいへんだった様子が窺える。しかし、その努力があって、今回の開催にはマラヤ大学と国際交流基金との後援を得ることができた。このことは、今後のマレーシアでの協働実践研究会の位置づけにおいて大きな意味があったと思う。 開会式会場、ワークショップ会場とも機能的だったと思う。ワークショップでの作業には靴を脱いで床に座れる部屋で、しかも大きなテーブルを使うことができたので、グループ作業やディスカッションには適した部屋だった。ランチ時間がうまくグループワークとのつなぎとなり、時間配分もちょうどよかったと感じた。 マレーシア人教師と日本人教師とがグループディスカッションできたことで、互いにいい刺激と意味のある情報交換が

できたという声も聞けた。今回の参加者の中には、マレーシアの大学で教師養成をされている方が、ピア・ラーニングをすでに実践研究されていることを知ることができた。教師教育を通じて、ご自身の研究と同時に、次世代のピア・ラーニング研究者の養成も期待できる。ぜひ今後もマラヤ大学の日本語教育関係者を中心に、マレーシアでのピア・ラーニングの実践研究を通じた教師間協働が発展していくことを期待したい。今回は、その兆しを感じられるような場であった。

ワークショップ後の懇親会では、マレーシア教師会のあり方が今まさに改革の時期にきていて、新たな教師会の再構成のための動きがあることを聞くことができた。東南アジアの協働実践の中核となって、周辺地域との連携を作ってほしいと思う。参加者からも、今後、ぜひ継続的に実践について語り合える場がほしいという声があがっていた。





10. 次回への課題

初日が平日開催だったので、大学関係者は参加しやすかったものの、日本語学校の教員にとっては参加しにくい日程となってしまった。しかし、マレーシアでは土日の両方を会の開催に設定することには無理があるとのことだったので、この日程しかなかったと思う。

一方、参加者が少数であったことで、これまで実施したワークショップの課題となっていた活動の深まりが、今回はかなり深いディスカッションにまで進めることができたと感じる。とくに、最終活動としていた「授業デザインとそれについての検討」の時間が十分に持てたことで参加者も企画者も満足度が高かった。今後の時間配分を検討する上で、今回の事例は参考となるであろう。

このような会を日本国外で開催するためには資金的な補助が必要となる場合が多い。また、現場からの盛り上げを支援するという意味でも重要なことであろう。とくに海外での開催には現地での何らかの支援が得られるかどうかは常に検討していく必要があるのかもしれない。